

第5次よしかわ行財政改革大綱（案） に対するご意見の内容とそれに対する市の考え方

第5次よしかわ行財政改革大綱（案）に対するパブリック・コメントを実施した結果、5件のご意見をいただきました。提出された貴重なご意見について十分に検討の上、それに対する市の考え方を次のとおりまとめましたのでお知らせします。

なお、「第5次よしかわ行財政改革大綱（案）」に対するご意見の内容とそれに対する市の考え方については、政策室の窓口でも閲覧できるようになっております。この度は、貴重なご意見誠にありがとうございました。

1 募集期間

令和2年1月29日（水曜日）から2月28日（金曜日）まで

2 意見応募状況

- (1) 提出者 1名
- (2) 意見件数 5件
- (3) 意見提出方法の内訳

提出方法	件数
郵便によるもの	0件
ファックスによるもの	0件
電子メールによるもの	1件
意見箱に投かんされたもの	0件

ご提出していただいたご意見については、住所・氏名などの個人情報を除き、原則として全文をそのまま転記したものを掲載しています。

問合せ先：政策室 企画担当
電話：048-982-9445（直通）

3 ご意見とご意見に対する市の考え方

	ご意見	ご意見に対する市の考え方
1	<p>・第4次の検証のアウトソーシングに関して、積極的になり過ぎずに保育園の公設公営維持を決定されたことに感謝します。水道事業もかなり委託部分もあるようですが、くれぐれも今後も民営化に進まないでほしいです。第5次でも官民連携がうたわれていますが、行政側も専門知識を持った人材を育成し、しっかりとした連携がなされることが大事だと思います。</p>	<p>アウトソーシングや官民連携につきましては、効率性の向上の視点だけではなく、サービス向上の視点も重要であるため、総合的に判断してまいります。</p> <p>また、専門性を持った人材の育成につきましては、大柱の「2 効果的な公共サービス」の中柱「① 行政サービスの質的向上」におきましても基礎となりますので、現在作成中の具体的取組を示す「よしかわ行財政改革推進プラン」の中に盛り込んでまいります。</p>
2	<p>・第4次大綱から、第3次までの基本方針にあった「市民主役」の文言が消え、第4次大綱は総括にもあるように硬直的なものを感じました。数年先には人口が減り、防災なども行政任せにはできなくなることが想定できる今、市民は単なる受益者ではなく主権者として考えていかなければならないと思います。その為にはどうしたら市民がその自覚を持てるようになるか？行政を身近に感じられるか？「市民主役」はやはり大きなテーマだと思います。</p>	<p>「市民主役」につきましては、行政サービスの前提となる考え方であることから、第5次大綱では、大柱の「2 効果的な公共サービス」の中で、「市民の満足度の向上」、「市民目線に立った利便性の向上」、「まちづくりにおける『自助・共助・公助』の意識醸成」と市民主役の観点をより具体的な取組みの方向性として掲載しています。</p>
3	<p>・市長キャラバン、どこでも市長、ランチミーティングという言葉はよく聞きますが、どんなに優秀な一人の市長より、多くの職員が直接市民の声を聞く機会が多くあった方がよいように思います。単に効率のみでなく、一人ひとりの職員がやりがいを感じて業務に取り組めるかも大切です。物事を決めるにあたり直接関係団体との話し合いを大切にしたいと考える考え方を大切にしたいと考えます。</p>	<p>職員が市民の方からご意見を伺うことは、大綱案に掲げている「市民・地域との連携」を進める上でも、重要であると考えております。当市では、市民参画条例に基づき積極的な市民参画手続きを推進しておりますが、今後もより一層多くの市民の方の声からのご意見いただきながら、市政運営に取り組んでまいります。</p>

	ご意見	ご意見に対する市の考え方
4	<p>・市民意識の資料を載せていただきましたが H27 のみ地域活動への参加意識が高く、住み心地の良さも高い数字でそれ以降は下がっています。その辺の分析はされているのでしょうか？市議選の投票率も低く、市民の市に対する意識は低いと考えられます。鶴ヶ島市では議会日程のポスターなども作られているようですが、お金をかけない小さな取り組みを重ねていくことも大事だと思います。</p>	<p>市民意識調査の分析につきましては、地域別や年代別、居住年数別といった分析を行っています。意識や実感といった市民の方の実情を伺う調査であることから、景気や社会問題の影響を受けることも多く、確定的な要因の分析が難しいものもございますが、「住み心地」や「定住意欲」といった設問では、年代や定住年数などの影響が確認できますので、社会構造の変化とともに注視していきます。</p> <p>また、小さな取り組みを重ねていくことは行財政改革において重要な視点であり、大綱案の中でも「継続的な改善」を掲げているところでございます。いただいた鶴ヶ島市の取り組みにつきましては、今後の事務の参考とさせていただきます。</p>
5	<p>・第5次大綱の構成員は3名とありましたが、行政の方は係わっていないのでしょうか。横断的に多くに部課の方の意見が入るべきだと考えますが、どんな方が作成されているのか気になります。</p>	<p>第5次大綱の策定にあたっては、担当部署の政策室において庁内調整を図りながら、職員個人からの提案募集など意見集約を行った上で、有識者と市民の方で構成する行財政改革推進委員会の3名の委員の方からご意見をいただいております。今後、今回のパブリック・コメントなどを踏まえ、最終的に市の重要施策を審議する政策会議で決定する予定です。</p>